

据置き型 盗聴器発見器

ameX AMEX-B007

OO7
WAVE SEEKER 7

取扱説明書

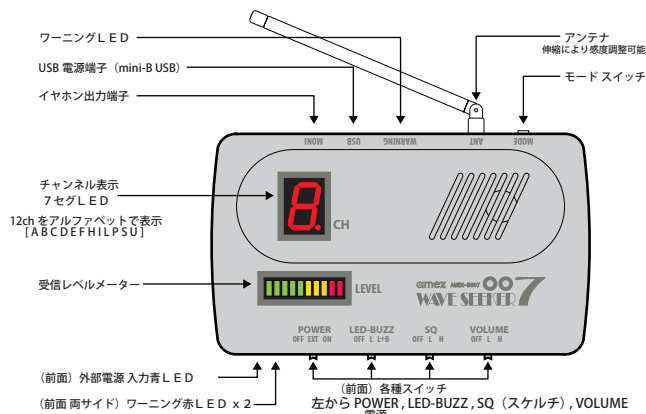
このたびは本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みの上で正しくお使いください。

日本製

特長

- 業界初 常時監視・設置型の盗聴器発見器です。
- 高感度・広帯域（主要 UHF 12ch）で盗聴波をキャッチします。
- 盗聴波発見時には全方向へ光と音でアラームを出してお知らせします。
- スケルチ切替えスイッチ&アンテナの伸縮にて自由に感度コントロールが可能です。
- マイコン制御により簡単操作が可能です。
- 検知エリアに盗聴器が仕掛けられると、即キャッチしてお知らせします。

本体レイアウト



各スイッチ説明 (VOLUME 以外は、基本的に全て右側で使います)

POWER スイッチ

- ・OFF 電源 OFF
- ・EXT 不使用（使用しません。電源 ON にする場合は2回右へ動かし、右位置までスライドさせて下さい）
- ・ON 電源 ON

LED-BUZZ スイッチ

- ・OFF ワーニングLED 点滅 OFF、オートサーチ検知時のアラーム音 OFF
- ・L ワーニングLED 点滅 ON、オートサーチ検知時のアラーム音 OFF
- ・L+B ワーニングLED 点滅 ON、オートサーチ検知時のアラーム音 ON

SQ スイッチ (スケルチ)

- ・OFF 常時スピーカー ON
- ・L 電波 (弱) 以上の電波を検知した時のみスピーカー ON
- ・H 電波 (強) 以上の電波を検知した時のみスピーカー ON

VOLUME スイッチ

- ・OFF 音声スピーカー OFF
- ・L 音声スピーカー ON (音量小)
- ・H 音声スピーカー ON (音量大)

製品仕様

電源		受信周波数
内蔵バッテリー	ニッケル水素 充電電池	チャンネル 周波数
電源入力	USB (mini-B)	A 398.605 MHz
付属 AC アダプター / 付属 mini-B USB ケーブル		B 399.455 MHz
消費電流		C 399.030 MHz
電源OFF (バッテリー充電時)	約 15mA	D 410.250 MHz
オートスキャン時	約 50mA	E 410.350 MHz
受信音声出力時	約 100 ~ 250mA	F 410.150 MHz
バッテリーのみで約 1H 動作		H 399.000 MHz
使用可能温度		I 320.720 MHz
使用可能温度 0℃ ~ +60℃		L 399.750 MHz
		P 406.520 MHz
		S 407.210 MHz
		U 399.605 MHz

保証書

品名	WAVE SEEKER 007		株式会社 青木製作所
製造番号	保証期間	お買上げ日より1年間	〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町 2917-1
※製造番号は本体裏側のラベルに記載されています			
お客様	お名前	様	
	ご住所		
販売店	お電話番号	—	—
	店名・住所	(印)	お買上げ日 西暦 年 月 日

無料修理規定

本製品は、当社において厳重な品質管理のもとに検査され合格したのですが、万一ご購入後1年以内に製造上の不備に起因する故障が生じた場合には、当社が責任をもって無償修理致します。なお、次に記載した場合の故障については、保証期間内であっても有償修理となります。

- (1) 使用上の誤り、不当な改造や修理などによる故障及び損傷。
- (2) ご購入後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷。
- (3) 火災、地震、水害、異常電圧、指定外の電源、電圧、周波数使用及びその他の天変地異などによる故障及び損傷。
- (4) 本保証書のご提示がない場合。
- (5) 本保証書の所定事項が未記入、あるいは字句が書き換えられた場合。

※本保証書は日本国内においてのみ有効です。

ご注意

保証書の再発行は致しかねます。記載事項をご確認のうえ、本取扱説明書から切り離すに、大切に保管して下さい。

保証書記載面に、販売店・お買上日などの所定事項が記入されていないものは無効となります。

もし、記入が無い場合は、販売店にお申し出ください。

保証期間内でも、無料修理規定 (1) ~ (5) に該当するものは、有料修理となりますのでご了承下さい。

この保証書は、本製品が日本国内で使用される場合に限り有効です。

ご使用方法

基本は前面のスイッチを全て右側へスライドさせて使用するよう設計されています。
(受信時にスピーカー音声の音量が大きすぎる場合は VOLUME「L」でご使用下さい)

- ① 始めに POWER 以外の前面スイッチを全て右側へセットし、アンテナを伸ばします。
- ② 付属 AC アダプターへ USB ケーブルを接続し、コンセントへ挿します。次に本体の USB 電源端子へ接続し、外部電源入力青 LED の点灯を確認します。その後に電源を「ON」にします。
- ③ 「モードスイッチ」を2秒ほど (ビピッと鳴るまで) 長押しして「オートスキャンモード」に切替えます。(チャンネルが A→B→C→… と 12ch 自動で順番に切替わるようになります)
※オートスキャンモード 詳細及びマニュアルスキャンモードの説明は本ページ下に記載します。

これで設定は完了です。盗聴波を自動で探しています。

オートスキャン中に電波の強さにより受信レベルメーター LED が点灯します。
[緑 (弱い) → 赤 (強い)] 点灯数が多いほど受信した電波が強い事を示します。
※ スキャン途中で緑 (弱い) レベルで点灯する事がありますが、微弱なノイズのため無視されます。

！ 反応 (一定以上の強い電波を検知したとき) ！

- ④ 一定以上の強さ (SQ スイッチ設定により 2 段階の感度切替え) の電波を受信した場合
 - ・LED-BUZZ スイッチが「L」または「L+B」の時にワーニングLEDが点滅します。
 - ・LED-BUZZ スイッチが「L+B」の時に「ビビビビ…」と数秒間アラームが鳴ります。
 (上記ワーニングLED点滅やアラームが鳴った場合は次の⑤へ進みます)

！ 判断 & 確認 (盗聴器かどうかを確認) ！

- ⑤ 背面のモードスイッチを押して「マニュアルスキャンモード」に切替えます。
モードスイッチを押して行くと、チャンネルが順番に切替わりますので、「受信レベルメーター」を確認しつつ一番電波の強いチャンネルに合わせます。
また、一時的に電源ケーブルを外して本体を手に持ち、移動しながら「受信レベルメーター」を確認して電波の発信源を探す事が出来ます。
※スピーカー音声を確認し、スピーカーから聞こえてくる音声で盗聴器かどうかを確認します。
→ 室内の音声が聞こえた場合…⑥へ
→ 電子音・ノイズ音・他社からの音…本説明書裏面のチャンネル除外設定方法を参照

- ⑥ 室内の音声が聞こえてきた場合、一時的に電源ケーブルを外して本体を手に持って移動しながら盗聴器を探す事ができます。音声を聞きつつ怪しい場所を軽く叩いたり音を出しながら場所を特定して下さい。本体と盗聴器がかなり近くなると出る「キーン」というハウリング音も場所の特定に役立ちます。

「マニュアルスキャンモード」とは

チャンネルを手動で変えるモードで、電源投入時はこのモードになっています。

モードスイッチを押すたびに「A→B→C→…→S→U→A…」とチャンネルが変わります。

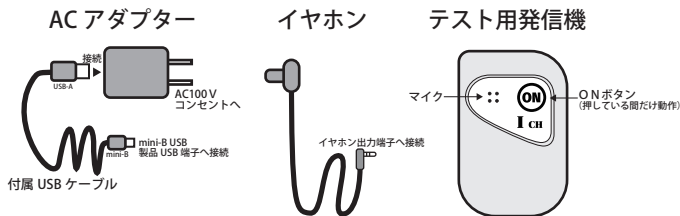
オートスキャンモード中はモードスイッチを押す事でマニュアルスキャンモードへ復帰します。

「オートスキャンモード」とは

各チャンネルを自動的に変えながらスキャンするモードで、一定以上の強さの電波を見つけると自動的にそのチャンネルでスキャンを停止してワーニング&アラームでお知らせします。

マニュアルスキャンモード中にモードスイッチを2秒以上 (ビピッと音がするまで) 長押しするとオートスキャンモードへ切り替わります。

付属品



電源接続について

付属 AC アダプターへ付属 USB ケーブルを接続します。
ケーブルの mini-B USB 側を本体の USB 電源端子へ接続してご使用ください。

内蔵バッテリーの充電について

基本は AC アダプター電源を繋いだままで使用して下さい。その状態であれば盗聴器をスキャン中でもバッテリーが充電されます。初回使用時またはバッテリー消耗時は電源を繋いでご使用のまま 1 2 時間ほどで満充電となります。盗聴器の場所特定のため内蔵バッテリー駆動で動作させる場合は、ある程度充電してから行って下さい。

テスト用 発信機

動作確認のためにテスト用発信機を付属しています。
周波数：320.720MHz(I ch) 使用電池：CR-2032 (内蔵)

テスト用発信機のご使用方法

- 1 本体使用法の通り電源を入れた後、モードスイッチを数回押して「I」ch にセットします。
- 2 本体の SQ スイッチを「OFF」にします。
テスト用発信機の「ON」ボタンを押し続けたままマイクに向かって声を出します。
- 3 それを受信した本体スピーカーから音声が出力します。
前面スイッチの設定により、LED 点滅及びブザーが鳴ります。
(テスト用発信機 ⇄ 本体 間は 1m 以内の距離でテストして下さい)

本テスト用発信機は盗聴目的に使用出来ないように「ON」ボタンを押している間のみ動作します。また、発信出力も電波法内に収めるため微弱にしておき、発信機⇄本体の距離は最大 1m～2m までしか届かないように設計しています。

ご 注 意

本機で受信サーチする 398 ～ 410MHz 帯には正規の無線で使用する周波数もあります。警察、消防、鉄道無線や TAXI 無線等の業務無線を使用している地域ではその電波を受信した本機が受信状態になる事があります。(「オートスキャン」サーチ時にその電波を受信してスキャンが停止してしまう)
なお、これら警察、消防等の無線電波はデジタル化されており、音声ではなくノイズがスピーカーから聞こえます。
その様な頻繁に不要な電波を受信するチャンネルが在る場合はチャンネル除外機能を使用してオートスキャンのチャンネルリストから除外する事ができます。
※ただし、除外したチャンネルは盗聴器が仕掛けられても受信できなくなります。

チャンネル除外 設定方法

「オートスキャン」状態にて操作を行います。
オートスキャン中に不要電波を受信して「ピピピピ…」と鳴っている間に 10 秒ほどモードスイッチを押し続けて下さい。「ピピピ」と鳴り 7 セグ表示がアンダーバー「_」表示になれば設定完了です。(「_」になるまで押し続けてください)
その後は再度モードスイッチを長押ししてオートスキャンモードへ入ると、該当チャンネルを除いてスキャンが始まります。
除外設定は「オートスキャン」に対してのみ有効です。

チャンネル除外設定 解除方法

チャンネル除外設定を解除するには、本体電源を切った状態でモードスイッチを押し続けたまま電源を ON にして下さい。モードスイッチを離さないまま 5 秒経つと「ピピピピピ」と鳴り、全ての除外設定が解除されます。

また、室内の無線 LAN やテレビの裏側等のある程度強い電波を発信する電子機器のすぐ近くへ設置しますと「ザー」というノイズを受信する事があります。その場合は対象機器から少し離して設置して下さい。

本製品は広範囲の周波数をカバーしますが、周波数帯の違いや通信方式の違いにより発見できない盗聴器もあります。

安全についてのご注意

使用場所・使用環境

- ◇ 日本国内で使用するください。
本機の仕様は日本国内向けとなっています。海外では電波方式、電源電圧が異なりますので使用できません。
- ◇ 人混みの中では使用しないで下さい。
アンテナが目などにあたり、けがの原因になります。
- ◇ 本機に水がかかる可能性のある場所で使用しないで下さい。
本機は防水処理はされておりません。水がかからないように十分注意して下さい。水がかかった場合は直ちに本機の電源を切り、AC アダプターを抜いて下さい。
- ◇ 雷が鳴り始めたら本機の使用を中断して下さい。
雷鳴時に本機に触れますと感電の原因になります。
- ◇ 分解・改造の禁止
本体ケースは絶対に開けないでください。
本機は精密部品を多数搭載しています。分解や改造を加えますと故障が起き、また感電の原因にもなります。

電源・電源コードの取扱

- ◇ 長時間で使用にならない時は AC アダプターをコンセントから抜いてください。
そのまま放置しますと故障の原因になります。
- ◇ 本機同様、AC アダプターの分解や改造は避けて下さい。
- ◇ USB ケーブルを傷つけたり、傷んだケーブル使用しないでください。
ケーブルを傷んだまま使用しますと、火災や感電の原因になります。

異常時の対応

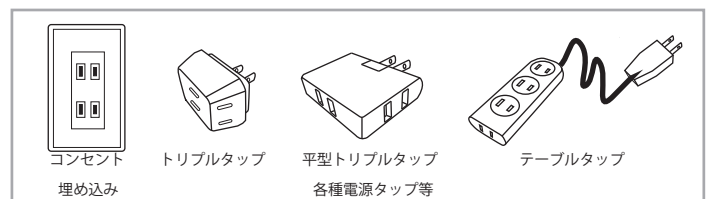
- ◇ 発熱、発臭、発煙を検出した場合には直ちに使用を中止してください。
これらの異常を検出した場合は、直ちに本機の電源を切り AC アダプターをコンセントから抜いて使用を中止してください。

本製品について

電波発信機は日本の電波法にて厳しい規定が設けられていますが、現状盗聴器自体に対する罰則はありません。多数出回る盗聴器に対して盗聴発見業者へ依頼して調査してもその後に盗聴器が仕掛けられる事も考えられます。また、パソコンや携帯電話等のデジタルデータについては情報漏えい対策が取られていますが、人間が会話しているアナログ音声の漏えいについてはほとんど対策されていないのが現状です。
本製品は盗聴器を常時いつでも監視するというコンセプトのもとに開発された商品です。盗聴器が仕掛けられると即 その場でアラームや LED 点灯によりお知らせするとともに受信した音声もスピーカーから出力します。
盗聴器は受信機とセットで使用するため、ABC チャンネルに集中しています。本製品は ABC チャンネルに加えて 398MHz ～ 410MHz 帯の良く使用されるチャンネルを広範囲にカバーします。

盗聴器について

このような所に盗聴器がよく仕掛けられています



盗聴器本体に (A) (B) (C) などのチャンネルシールが貼ってあることがあります。
盗聴器は長時間動作させる必要があるので、AC100V 電源に直接入れる事が多くなります。

盗聴器を仕掛けて盗み聞きをする人物は、目に付かない屋外で受信する事になるため 50m ～ 100m 離れても聞く事が出来るように盗聴器の電波出力が強く発射されています。
本製品は盗聴目的では無く発見が目的のため、人間の声が聞こえる 5m ～ 10m 範囲内の盗聴器の発見が出来るように調整されています。